

汎用技術のある経済における、産業政策と厚生の関係

西村拓海 *

概要

本研究では、汎用技術 (General Purpose Technology; GPT) に対する産業政策と経済の厚生について、Helpman and Trajtenberg(1998) の、Variety Expansion Model に汎用技術を導入したモデルをベースとして分析を行った。科学技術の進歩を表す”サイエンス”を追加的に導入して産業政策の頻度にトレードオフを発生させた。結果として、以下の2点のことがわかった。1つ目は、次のGPTへ乗り移っていくようなサイクルが存在する中では、政策の間隔が長いほど厚生が高まるということである。2つ目は、政策の間隔が広すぎる、かつ新GPTの恩恵が小さいと次のGPTに乗り移ることがないということである。これは、現状のGPTでの補完財が十分すぎるほど開発されており、現状のGPTを捨てるメリットがないため、ロックイン効果が発生していると解釈できる。

key words: General Purpose Technologies, Variety Expansion Model, Economic Growth, Technological Change

* 大阪大学経済学研究科博士前期課程2年